

骨粗鬆症専門外来

— 概要

骨粗鬆症は骨折のリスクが増大しやすくなる骨格疾患であり、現在の診断基準に当てはめると、日本に1,100~1,300万人の患者さまがいらっしゃるかと推定されています。骨折の中でも、大腿骨近位部骨折は、寝たきりの要因になるだけではなく、死亡率の上昇にもつながると言われており予防や治療が重要です。骨粗鬆症の多くは閉経後女性に発症しますが、その他にもホルモン異常や生活習慣病、慢性腎臓病、関節リウマチなど多くの病気が関係します。当院では2019年より骨粗鬆症外来を開始し、骨粗鬆症への専門的な診断と治療、骨粗鬆症の啓発活動を行っています。骨の健康に対する質の高い評価を行うことで、この超高齢化社会で少しでも健康寿命の延伸に繋がればと強く願います。

— 疾患と治療法

初診の患者さまには、問診、身体診察、血液検査、レントゲン写真、骨密度検査を通して、骨粗鬆症の診断とともに、その他の内科的な病気が隠れていないか、丁寧に診察します。2015年の「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン」には椎体骨折と大腿骨近位部骨折は全例薬物治療の適応であることが明記されています。骨折後の再骨折リスクが高いこと、骨折後の適切な薬剤治療が、再骨折のリスク低減のみならず死亡率の低下や医療費の削減に寄与するなどの十分なエビデンスに基づいています。食事・運動療法の指導とともに、患者さまにとって、適切な薬物療法を選択します。

— 受診患者数

